

1 授業UDとは

「授業UD」とは、「障害者の権利に関する条約」において定義されている「ユニバーサルデザイン（調整又は特別な設計を必要とすることなく、最大限可能な範囲で全ての人が使用することのできる製品、環境、計画及びサービスの設計）」の考え方を取り入れた授業のことです。

具体的には、

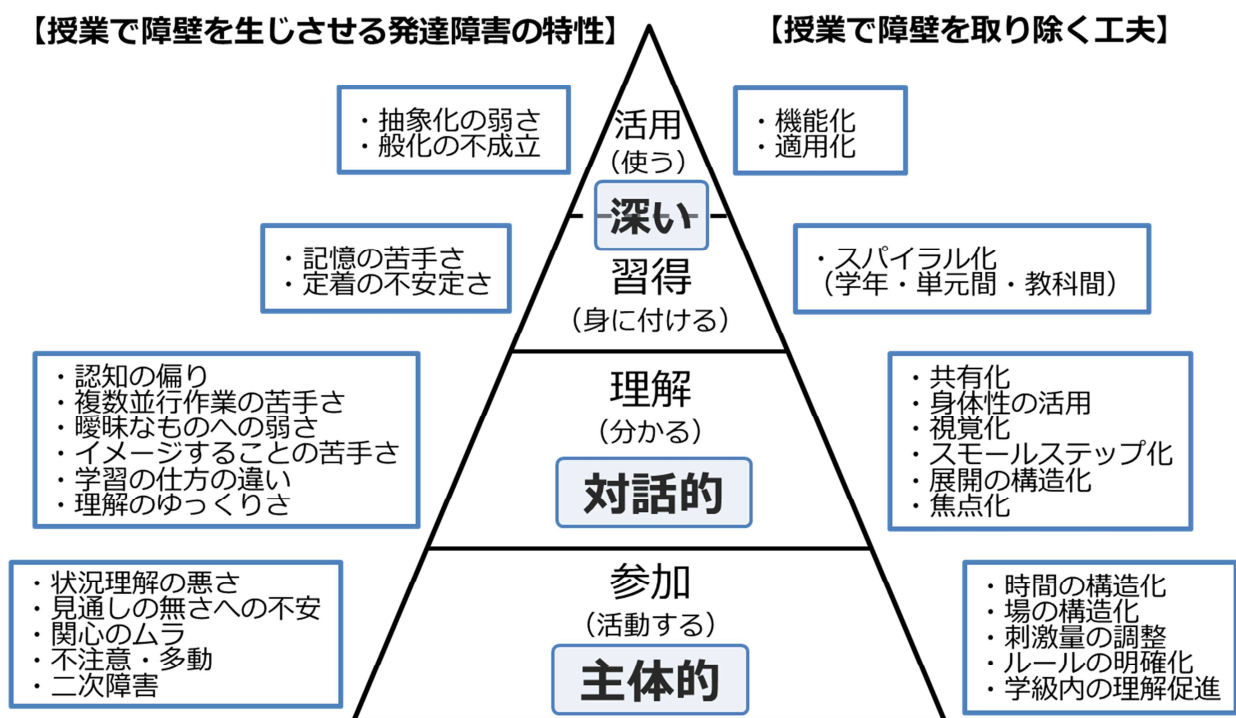
「学力の優劣や発達障害の有無に関わらず、すべての子どもが楽しく学び合い『わかる・できる』ように、工夫・配慮された通常学級における授業」

です。

ユニバーサルデザインの視点による工夫・配慮は、発達障害の特性を有する生徒にとっては「なくては困る支援」、その他の周囲の生徒にとっては「あると便利な支援」になります。



授業づくりの視点を「授業UDの階層モデル」を参考に考える



中央の三角形は、授業を「参加」「理解」「習得」「活用」の4階層で捉えたものです。三角形の左側に、授業で障壁を生じさせる発達障害の特性が示され、三角形の右側には、授業で障壁を取り除く工夫が示されています。また、「参加」の障壁を取り除く工夫には、「授業を支える環境づくり」と関連する部分も多くあると考えます。また、主体的な学びは「参加」の階層、対話的な学びは「理解」の階層、深い学びは「習得」「活用」の階層に該当すると考えられています。

授業で障壁を取り除く工夫の具体例

1 「参加（活動する）」

- (1) 学級内の理解促進
 - ・ 失敗をからかわない、笑わない学級の雰囲気をつくり、分からないことを安心して表明できるようにする。
 - ・ 得意、不得意を含めたお互いの理解を機会がある度に行う。
- (2) ルールの明確化
 - ・ 質問の仕方、意見の伝え方、話合いの仕方など基本的な授業のルールを決め、授業参加をやすくする。
- (3) 刺激量の調整
 - ・ 教室内の掲示物や棚の中身、教室内外の雑音などの無意識に飛び込んでくる妨害刺激を調整し、授業から気持ちが離れることを防ぐ。
- (4) 場の構造化
 - ・ 教室内の物品を決められた場所に置くことで、全ての生徒が無駄な動きをせず物品を使えるようにする。
 - ・ 板書する際に、どこに何を書くか、どの色のチョークを使うかなどをあらかじめ決め、授業の流れが分かるようにする。
- (5) 時間の構造化
 - ・ 授業の流れを黒板に示して活動に見通しを持たせ、行動をコントロールしやすくする。

2 「理解（分かる）」

- (1) 焦点化
 - ・ 授業のねらいや活動、発問などを絞る。学習内容や活動をシンプルにしたり、間口の狭い発問にしたりすることで、生徒にとって取り組みやすく理解しやすい授業にする。
- (2) 展開の構造化
 - ・ 授業の焦点化に基づき、授業の進め方や説明の方法、何を体験させるかを決めるなど、授業の展開を論理的に構成する。
- (3) スモールステップ化
 - ・ 生徒が目標に到達しやすくするために、学習過程に細やかな段階をつくる。
- (4) 視覚化
 - ・ 挿絵、写真、動画、センテンスカードなどを効果的に活用することで、視覚的な手掛かりからも理解できるようにする。
- (5) 身体性の活用
 - ・ 感覚的に取り入れたことを動作化、作業化させることで理解を深められるようにする。
- (6) 共有化
 - ・ ペア学習やグループ学習など話合い活動を組織化して、理解を学級全体で図る。
 - ・ 理解の遅い生徒は、他の生徒の意見を聞いて理解を進めさせ、理解の早い生徒は自分の意見を説明することでより深い理解に到達させる。

3 「習得（身に付ける）」

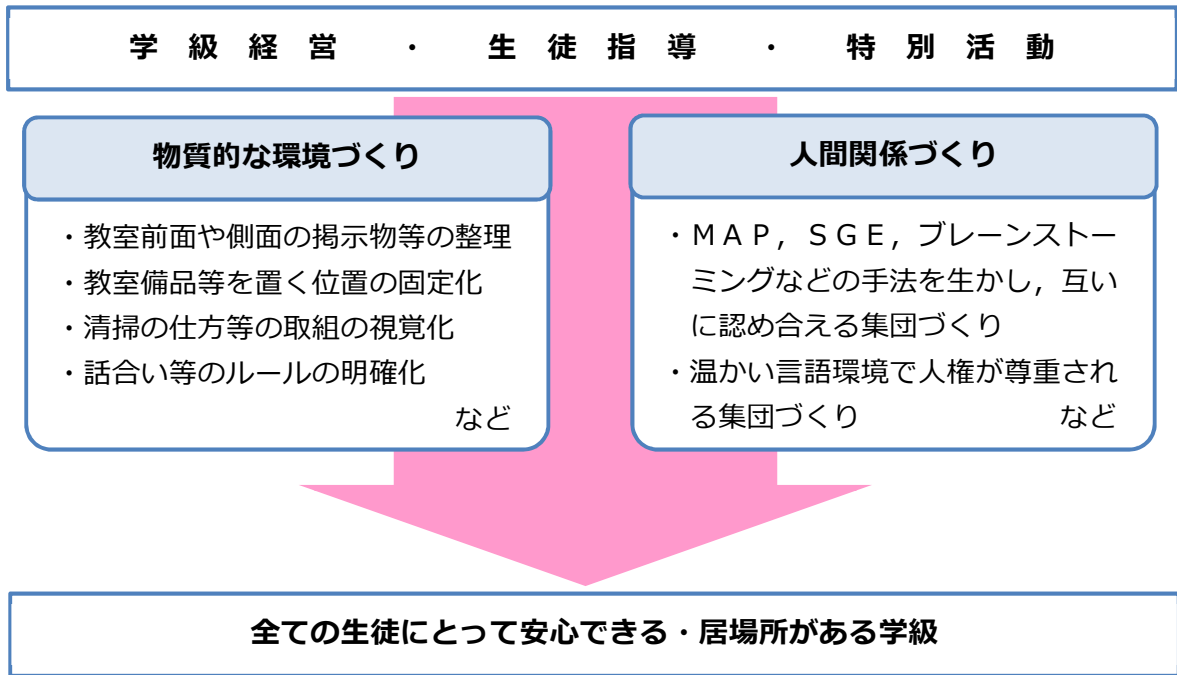
- (1) スパイラル化
 - ・ 既習事項の復習を授業で行い、再理解の機会や理解の深まりを確保する。
 - ・ 他教科の学習内容と連携させる。

4 「活用（使う）」

- (1) 適用化
 - ・ ある単元で学んだ「見方・考え方」を意図的に別の単元でも生かせるようにする。
- (2) 機能化
 - ・ 授業で習得した知識、技能を実用的に活用できるようにする。

2 授業を支える環境づくり

授業UDの中心は授業づくりですが、学級経営や生徒指導、特別活動などによる「全ての生徒にとって安心できる・居場所がある学級づくり」に支えられている部分が非常に大きいと言えます。特に授業UDの階層モデルの「参加（活動する）」に関連します。



具体的な手立ては、平成29年度宮城県総合教育センター特別支援教育研究グループの研究成果物「児童生徒の理解と支援のための研修パック」の「教育環境等の整備（その1）（その2）」を参照してください。

専門研究 特別支援教育研究グループ 児童生徒の理解と支援のための 研修パック

理解と支援のための研修パックとは…
特別支援教育や発達障害等の基礎的な知識を理解した上で、児童生徒への適切な支援を教員間で連携して行うための研修資料をまとめたものです。より実的な研修ができるように、発達段階に合わせて3種類の研修を作成しました。あなたの学校に合わせた研修を行うことができます。



研修パック
ダウンロードはこちらから

- 小学校 小学部編
- 中学校 中学部編
- 高等学校 高等部編

理解と支援のための研修パック 検索

(http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/midori/tokushi/rikai_shien/)

知識編